

紹介

◎東京寫眞研究會第一回品評會畫集第二輯 印畫十五面、鮮麗なる印刷の下に出版されたり。人物風景何れも位置濃淡の調子面白く畫家の參考としてまた遺憾なし(定價未詳、東京日本橋區本町小西本店發行)

問に答ふ

■一 パレットの塗りの剥かれたるは素人にて塗り直しの出来ぬものにや■二 繪を立てかけて寫生する時腕枕を用ゐるも細部を満足に描けず如何にしてよきや■三 繪畫に散漫との評を受くること多し如何にせば散漫を避け得べきや(常陸の人)◎一 エナメルにて塗りよく乾きて後ち細かきヤスリ紙にて磨ればよしといふ、但し編者の實驗にあらず■二 戸外寫生の際に腕枕など用ひる必要なし、そんなに細かく畫くものでなし、室内にて人物肖像など描く際はこれを用ふることあり腕枕を用ひても描けぬ程の細部は

西洋畫を描く上に省略して可なり。但如何なる細き線でも點でも腕枕を用ひて畫けぬといふものあらざれば、恐らく腕枕の使用法の誤りか■三 繪には必ず主眼とすべき處ある筈なり、而して其主眼以外に主眼よりも人の目を惹くやうな色彩がある時は、散漫となりて統一せぬなり、假令ば、こゝに神社あり、後ろに森あり、横に手洗所ありとして、此處を寫生する時、神社を主として畫くのなら他のものは背景なり、然るに神社以外の手洗所も、神社と同様の強さを以て畫く時は、一國に二人の王ある如く、統一を失ふなり、況んや背後の森の幹を黒々と畫いたり、横合から強い色の枝を出したり、畫面の隅に鮮やかな色の人物を畫いたりすると何れが畫の主眼だか分らぬことになり、即ち圖様が散漫となるなり、故に神社なら神社を中心として、他のものはそれに比較して弱く畫くので、これは故らに弱くするのではなく、實際主とするものを見て首を廻すことなく他の物を見ればボンヤリ見ゆる筈なり、その心持で畫けば

自然散漫の弊より脱し得べきなり■婦人にして夏期講習會へ出席することを得べきや(桂花女)◎差支なし■一 墨繪の素養なきものにて講習會へ出席し得べきや■二 館山北條附近は要塞地なりや■三要塞地寫生願書は提出後何日目位に許可さるゝにや■四 日本水彩畫會々友は現在何名程なりや■五 シコーといふものカンプीडの代用として可なりや(自然兒)◎一 差支なし程度に應じて各別に教授さるべし■二 要塞地帯にあらず■三 日限は一定せず又許可されぬ場合もあり■四 現在百十名程なり■五 雌黃は代用し得べし廉價なるチュープ入のものに優ること萬々■會友なれば直接諸先生に肉筆畫の揮毫を依頼し得べきや(茨城好畫人)◎會友にあらずとも本會へ御申越あらば取扱ふべし■『みづゑ』の缺本は何號なりや又割引の程度を知りたし(初學者)◎第一より十三迄十五、十七、十九、二十、二十九は缺本他の殘本三十八迄は十冊以上の注文に限り一部送料共十錢の割にて御求めに應ずべし■私は直接讀者ではないが投書